



- 温暖化が与える影響 -

身近な物から海を越えた遠い国まで...

温暖化が進むと自然環境や人の暮らしに様々な影響を与えます。その中で今回は遠く離れた南極と、身近な果物についてみてみましょう

温暖化とは・・・

大気中の二酸化炭素、メタン、フロンなどの温室効果ガスが大気中で増えすぎ、地球全体の平均気温が上昇することにより地球環境が悪化し、自然環境や生活に大きな影響を与えます。

① 南極の氷への影響

現在世界で気温の上昇が著しい地域のひとつに南極半島があります。米オハイオ州立大学の研究によると、南極半島を含む西南極の1958～2010年の気温上昇は2.4°です。これは同期間での世界平均気温上昇の3倍にあたります。南極大陸は日本の約37倍の面積があり、その98%が分厚い氷で覆われています。その南極大陸は1年間で約100ギガトンの氷が溶けています。これは日本人が1年間に使う生活水が全国民合わせて13ギガトン、約7年分の氷が1年で失われていることになります。南極の氷が全て溶けた場合、60m(建物だと約20階の高さ)海面が上がると考えられていて、いずれ東京23区も水没してしまいます。



② 果物への影響

果物の生育には気温が大きく関係しており、農家や産地は気候変更の影響を強く受けてしまいます。

みかんへの影響

みかんの実が大きくなる秋以降に気温が下がらないと、皮と身の間にできる「浮皮(うきわ)」が発生します。皮が破れやすく、輸送中に腐りやすくなります。また日焼け果、着色不良・着色遅延もみられ、味もぼけてしまいます。



ぶどうへの影響

巨峰などの黒色品種のぶどうは、高温になると皮がきれいに色づかない「着色不良」と呼ばれる被害が発生します。味に影響はありませんが、見た目が悪く、商品価値が下がります。



りんごへの影響

温暖化が進んだ条件で栽培すると、実の赤さや色づきが悪くなります。また、糖度が高まり「酸度」「硬度」は低下し、酸味と甘みのバランスがとれなくなり、食味が変わります。



- 航空会社JALの取り組み -



全世界のCO2排出量約2%を占める航空業界。

JALでは空の旅で避ける事の出来ないCO2排出を埋め合わせるオプションとしてJALカーボンオフセットがあります。搭乗した航空機のCO2排出量を算定・可視化し、相当分をその削減活動に投資することにより、地球温暖化防止活動に参加できます。投資資金はCO2削減、吸収、回避を目的としたプロジェクトの支援にあてられます。

CO2排出量実質ゼロフライトで羽田から沖縄へ

JALは最新鋭のエアバスA350型機を使い、国内初となるCO2排出量実質ゼロのフライトを実現しました。給油している車体も一部SAF(廃食用油や動物油脂、廃棄物等を原料に作られた代替航空燃料)を使用し、手荷物を運ぶトラクターも電気自動車を使用、地上車両のCO2排出量も実質ゼロを実現しました。出発時には片側のエンジンのみで滑走路付近まで移動し、離陸直前でもう一方のエンジンを作動させる方法を使用しました。飛び立つ時も早めに加速することで燃料消費を抑え、巡航時は省エネに最適な高度をキープ。細かな省エネの工夫を積み重ねました。機内食もグルテンフリーの豆腐麺や大豆ミート、不揃いで規格外のリンゴで作ったジュースが配られました。更に機内誌はデジタル化し、機体重量を削減。もともと省燃費なエアバスA350ですが、運航におけるCO2排出量削減の工夫に加え、乗客協力のもとおこなったカーボンオフセットも含めて、CO2排出量実質ゼロを実現しました！



旅の詳細を入力してください 出発地 - 到着地

出発地 東京(成田)

ストップを追加

到着地 シカゴ

クラス エコノミー

乗客 1

往復便

単定排出量合計 14.19 t CO₂e

合計金額 29,524 JPY

決済に進む

カートに追加

再エネ電気のJクレジット金額

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
再エネクレジット	¥5,421	¥6,345	¥4,523	¥4,304	¥3,140	¥3,613	¥5,344	¥5,932	¥5,038	¥2,905	¥3,154	¥4,603	¥54,322
換算 3890/t-co2	1.39	1.63	1.16	1.11	0.81	0.93	1.37	1.52	1.30	0.75	0.81	1.18	13.96